

## 就農事例

### 大東洋木氏 (まるまる農園)

調査日	令和4年10月(就農後5年目)
所在地	高松市西植田町
URL	<a href="https://www.marumaru-farm.com">https://www.marumaru-farm.com</a>
経営主	大東 洋木
主要事業	露地野菜、果樹、麦
主要作目	ブロッコリー 150a 麦 480a キウイフルーツ 8a スイートコーン 45a
就農タイプ	新規就農(非農家出身)
就農時期	平成29年
労働力	家族 2名(本人、妻) 常時雇用 0名 臨時雇用 1名

## ヒストリーあらすじ

- ・大東洋木氏は埼玉県の非農家出身で、ワーキングホリデー先の海外で果樹農園で働いたことで、農業の楽しさに目覚め、帰国後、農業関係に携わりたいと強く希望。
- ・以前旅で訪れ印象の良かった香川県で4年間、露地野菜の法人で雇用就農し、栽培技術等を習得したうえ、平成29年1月に独立就農した。
- ・当初は、農機具がないため、機械整備に苦労したが、中古機械を導入する等、コスト削減に努めたり、品目も春どりブロッコリーのみで開始したが、丁寧な管理で地域の人から信頼を得た結果、借地面積も年々拡大し、年内や年明けどりの作型や新たな品目として、スイートコーンを導入する等、出荷が途切れない経営に繋がった。
- ・露地野菜主体で徐々に所得を上げていったが、さらに麦やキウイフルーツを新たに導入する等常にチャレンジし、経営規模拡大を図ってきた。
- ・大東氏は、農業で結果を出しながら7月後半は長期休暇を取る等、メリハリのある農業経営を行い、同年代の人に働き方の成功事例として発信をしている。

エッセンス	
●長期間研修による基礎作りが丁寧な管理につながる	・農業法人で4年間働き、作業の基礎を十分に学んだ。 ・経験を生かし、天候に左右されない管理技術や、作業の遅れを防ぐ早め早めのスケジュール感により、ロケットスタートを切れた ・排水対策等にも努め、高品質な農産物を安定的に生産し、地域の人たちの信頼も得て、借地も順調に進んだ。
●多品目栽培による経営の安定	・借入面積も拡大したことから、主力品目のブロッコリーの作型分散や、新たな品目(スイートコーン、麦、キウイフルーツ)にも取り組み、常に出荷が途切れない安定経営に繋がった。
●メリハリのある働き方	・農業経営の安定のために、多品目経営と規模拡大を行いつつ、農閑期の7月には、思い切って長期休暇を取る等のワーク・ライフ・バランスを心掛けている。

露地野菜のみならず、麦、キウイフルーツ、香川本鷹等、多品目経営に取り組む



「まるまる農園」の看板と  
スイートコーン



冬春主力のブロッコリー栽培



経営の幅を広げた「さめきゴールド」

大東洋木氏



麦栽培にも取り組む！



香川本鷹にもチャレンジ

# 大東洋木氏 ヒストリー<課題と対応策>

就農前	就農期 平成29年～	確立期 令和2年～	発展・将来構想 令和4年～
<p><b>●県外・非農家出身</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県外（埼玉県）の非農家出身</li> <li>・ ワーキングホリデーで農業の魅力に出会う。</li> </ul> <p>ワーキングホリデー先の豪州のバナナ農園で働いたことで、自然に触れ合いながら仕事ができる農業の楽しさや魅力に目覚めた。</p>	<p><b>●平成29年に独立就農</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成29年1月就農開始。</li> <li>・ 春どりブロッコリー栽培50aから開始。</li> <li>・ 丁寧な農地管理で地域から信頼を得て、年々農地が集まった。</li> </ul> <p>農業法人で学んだ技術を生かし、排水対策や防除対策がしっかりできたことで、高品質な農産物の安定生産につながった。</p>	<p><b>●さらなる新規品目の導入①</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 当初より希望していたキウイフルーツ6aの栽培を開始、数年後の収入を見込む。</li> </ul> <p>果樹栽培に興味がある中、県がキウイフルーツに注力していることから、特に付加価値が高い「さぬきゴールド」を導入。</p>	<p><b>●認定農業者にステップアップ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年3月に高松市の認定農業者に認定される。</li> </ul> <p>同世代が魅力的に感じる農業経営を、今後も目指していく。</p>
<p><b>●香川で雇用就農を始める</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成24年、高松市内に妻と揃って引っ越し。</li> <li>・ 同時に野菜の農業法人に雇用就農。4年半勤めて栽培技術等を習得した。</li> </ul> <p>一念発起し、就農を決意。以前来県した縁もあり、高松市内の農業法人で4年半学び、栽培の基礎や人脈を築き、農地や住居取得に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農機具がない中、中古品購入により、コスト削減を図った。</li> </ul>	<p><b>●規模拡大と新品目を検討</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農地面積が増えたことから、安定生産に向け新品目の追加による年間出荷体系を検討</li> </ul> <p>単価が安定していたブロッコリーの規模拡大（作型分散）やスイートコーン栽培を20a栽培することで、夏場の収益を確保。</p> <p><b>●資金を活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 平成29年2月に高松市に認定新規就農者に認定、同年7月から農業次世代人材投資資金が交付される。</li> </ul> <p>交付金により、機械整備や運転資金に活用できた。</p>	<p><b>●さらなる新規品目の導入②</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 規模拡大のため、省力化が可能な麦栽培を開始</li> </ul> <p>農地が400aと拡大したことから、省力的で単価が安定している麦栽培に注目。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 主力のブロッコリーの価格低下のため、麦栽培にシフト。</li> </ul> <p><b>●効率的な農業の模索</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農地が分散している。</li> <li>・ 作業の効率化を図り、時間に余裕のある農業経営を検討。</li> </ul> <p>農地の集約化を積極的に図っていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨時雇用をすることで、休日の確保につなげていくことを検討。</li> </ul>	<p><b>●ワーク・ライフ・バランス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 農業で結果を出しつつ、農閑期にはしっかり休むメリハリのある経営を行っている。</li> </ul> <p>農閑期の7月には、長期間思い切った休暇を確保できる経営を実施している。</p> <p><b>●地域に信頼される経営者を目指して！</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若い農業者と交流を図り、技術等について切磋琢磨している。</li> <li>・ 未来の新規就農者の育成も積極的に目指している。</li> </ul> <p>フランクで愛される人柄が、地域や農業の仲間から好評を持たれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同年代に、職業としての農業の選択が魅力的に感じられるようなモデルケースとなるよう、今後も目指していく。</li> </ul>